加東市人権啓発情報誌

夢★きらめいて

No. 34

加東市/加東市人権・同和教育研究協議会　令和５年3月1日

「人権と協働を考える市民のつどい」の様子

目次

●特集「マイクロアグレッションをご存じですか」……2～5
●特集「男女共同参画に関する意識調査の結果からみえてくること」‥6～9
●中学生の人権作文 ……10～13
●地域に学ぶ体験学習支援事業 ……13
●小中学校人権教育講演会 ……14
●加東市人権・同和教育研究協議会の活動 ……15
●広域隣保活動事業 ……16
●加東市企業人権教育協議会の活動 …16
●第16期加東市民人権講座修了者 ……17
●園児による共同作品 ……18～19
●人権に関する悩みごとの相談先 ……20

加東市は住みやすい街ですか？

特定非営利活動法人
加東市国際交流協会
理事長　平川　米一

現在、加東市には1600人の外国人が暮らしています。国籍は様々、市内の会社で働いている人、兵庫教育大学で学ぶ留学生、さらにその家族。彼らにとって加東市は住みやすい街となっているでしょうか？市内で外国人を見かけるたびにそんな思いがよぎります。

実は私も若い頃に、赤道直下のパプアニューギニアという国で3年間暮らしていました。文化や風習、食べ物、すべてが日本とは異なる国、しかもそこで仕事をしていくのは大変でした。言葉と文化の壁にぶち当たり、悩み、不安な日々が続きました。上司は英国人、同僚は豪州人、部下はパプアニューギニア人と、意思疎通もなかなかうまく行きませんでした。数か月経ち、パプアニューギニアの人達とは現地語でなんとかコミュニケーションが取れるようになると、友達もでき、そんな不安も次第に解消され、南国の生活を満喫する事ができました。

先日、我が地区のとんど焼きに数名の外国人の参加がありました。ボツワナ出身の女性が年女という事で、とんどに点火をして頂きました。初めて見るとんどやへそ団子で楽しい時間を共有することが出来ました。見知らぬ土地でも現地の人々と触れ合える機会がある事は、彼らにとってどれだけ心強い事でしょう。こんな光景が市内のあちらこちらで、当たり前に見受けられるようになればいいですね。

外国人を見かけたら、日本語でいいので気軽に声を掛けてあげてください。加東市がもっともっと外国人やそして日本人にも住みやすい街になる事を願っています。

特集

マイクロアグレッションをご存じですか?

在日コリアンカウンセリング＆コミュニティセンター（ZAC）
センター長　丸一俊介さん（公認心理師/精神保健福祉士）

読者のみなさま、はじめまして。

今日はみなさんにマイクロアグレッションという言葉を紹介したいと思います。耳慣れない言葉かもしれませんが、最近とても注目されている言葉です。友人、家族、パートナー間、学校や職場など日常的なコミュニケーションにかかわる概念です。

○誉め言葉なのにモヤモヤする?

「女なのに頼りになるよね～」
「旦那さんイクメンですよね!」
「日本語上手ですね」

言っている側は誉め言葉のつもりでも言われた側はモヤモヤする。そんな経験をしたことはないでしょうか?

例えば「女なのに頼りになるよね」という言葉について考えてみましょう。例えば会社や学校で会議やプロジェクトのリーダーとして女性が活躍する、そんな場面で使われることがある言葉ですよね。一見すると誉め言葉のようですが「女なのに」「頼りになるよね」という言葉の裏には「一般的に男性に比べて女性はしっかりしてない、自立心や決断力が乏しくリーダーに向いていない」といった女性への〝偏見〟が隠されています。例えば世界を見渡してみましょう。ドイツのメルケル元首相を始め有名な「頼れる女性リーダー」がたくさん存在しています。「女性が頼りなくてリーダーに向いていない」なんて、全く根拠のない偏見なんですね。つまり「女なのに頼りになるよね」という言葉は、言っている側は「誉めているつもり」でも実は無自覚に「相手をけなし」たり「劣った存在である」といったり見下しのメッセージを伝えています。

「イクメンだよね」という言葉にも隠された偏見があります。例えば普段から育児をがんばっている女性が「『イクメンだよね』と聞くとなんかモヤモヤする」という話をしばしば耳にします。女性が子育てを頑張ってても「イク○○」とか呼ばれないですよね。この言葉の裏には暗に「子育ては女性がやるもの」という偏見が隠されています。

また、「日本語上手ですよね」という言葉はどうでしょうか?見た目や名前で海外にルーツがあると思われる人が流ちょうな日本語を話した時にかけられる言葉です。でも日本には海外にルーツを持つ方がたくさん住んでいて、日本生まれ日本育ちで日本語話者の方も多くいます。「日本語上手ですよね」という言葉には悪気はなくとも「あなたは日本人ではないのに」「日本語が話せないはずなのに」と

いう思い込みが隠されています。言われた側は「よそもの扱い」されていると感じる表現です。

こうした一見、誉めたつもりや善意からの言葉であっても、実はそこに「偏見」をベースにした「けなしや見下し、侮辱や中傷」が含まれている言動を「マイクロアグレッション」と言います。「マイクロ」は「日常の」、「アグレッション」は「攻撃・差別」という意味です。思い返せばみなさんもどこかで言ったり、言われたりしたご経験があるのではないでしょうか？言っている方は無自覚で、言われている方は「モヤモヤしたり嫌だなあと感じてもうまく言葉にできない」そんな捉えづらく扱いにくい、という特徴を持っています。

○マイクロアグレッションの歴史

アメリカでは古くから人種差別が問題になり、黒人差別を是正し白人と同等の市民権を認めさせようとする公民権運動が行われてきた歴史があります。その過程で「人を肌の色や人種の違いでバカにしたりひどい扱いをしたりすることは良くない事だ」という意識が高まっていきました。１９７０年代になって、アメリカの精神科医であるチェスター・ピアスは、人種差別を研究している中で白人の黒人に対する「露骨ではなくわかりにくい見下しや侮辱」があることを発見しました。公式な制度や建前としては差別は是正され、差別は良くない事だという意識も高まっていましたが、実はもっとわかりにくく見えにくい形で差別が残されていることがわかってきたのです。ピアスはその現象を「マイクロアグレッション」と名付けました。

その後１９９０年代にはコロンビア大学の心理学教授であるデラルド・ウィン・スー教授がマイクロアグレッション概念をあらためてまとめ、大きく注目を浴びました。現在でも研究が進められています。日本では２０２０年、私も所属するマイクロアグレッション研究会によりスー教授の著作「日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション」（明石書店）が翻訳出版され、インターネット上などでも話題になるなど、ここ数年で大きく注目をあびている概念です。

○マイクロアグレッションの特徴

マイクロアグレッションには以下のような特徴があります。

・学校や職場、友人関係の中など日常の中でおきる。
※「マイクロ」は「小さい」と翻訳されることもありますが「日常の」と訳すのが正確です。
・何気ないやり取りの中に見下しや中傷、侮辱が含まれている。
・言っている側は悪気がなく、誉め言葉や善意のつもりでいることもある。

そしてマイクロアグレッションは誰もが被害を受けるわけではなく特定の属性に対して行われるという特徴もあります。

・女性の方
・人種、民族的少数者の方
・ＬＧＢＴＱ（性的マイノリティ）の方
・障がいのある方
・被差別部落出身の方

など、社会的な少数者や社会の中の周辺に置かれている人、疎外された立場にある方がその被害を受けます。この原稿を書いている私は海外にルーツのない日本人の男性です。少し大雑把な言い方をしますと、私のようなマジョリティに属する立場の場合は被害を受けるよりも与えることが多くなると言えます。属性によって明らかにその被害

の量が異なる点はマイクロアグレッションの大きな特徴と言えます。

○心身への有害な影響

マイクロアグレッションはその一つ一つは小さなことと思うかもしれません。

しかし、学校でもお店でもテレビを見ても友達としゃべっても・・・日々の中で何度も何度も繰り返し受けてしまうことが特徴です。例えば冒頭にあげた「日本語上手ですね」という言葉は、海外にルーツを持つ方やミックスルーツ（いわゆる「ハーフ」）の方にとって、人と会うたびにかけられる言葉だと言います。「ナニジンですか？」「どこからきたの？」「ハーフなのに英語できないんだ!?」・・・日本生まれ日本育ちの方にとっては名前や見た目だけで「自分たちとちがう」「よそもの」として扱われ続ける経験が積み重なっていきます。こうした心が削られていく体験が繰り返され積み重なることで、心身に有害な影響を与えることがわかっています。さらに、マイクロアグレッションについての研究からは、マイクロアグレッションを受けた後は受けない状態に比べてテストの点数が下がるなど、個人のパフォーマンスへの悪影響も指摘されています。

○マイクロアグレッションの影響

・傷つき、混乱・消耗が繰り返され、累積する。
・自信や気力の低下、抑うつ、不安、不眠など心身への悪影響が報告されている。
・自分の持っている本来の力が発揮できなくなる。

こうした絶え間のなさ、繰り返しによる被害の深刻さは、マイクロアグレッションを受けることの少ない立場の人からは見えにくく、１回だけの出来事を切り取って「たいしたことない」「気にしすぎ」と誤った評価をされてしまうこともあるので注意が必要です。

○組織への影響

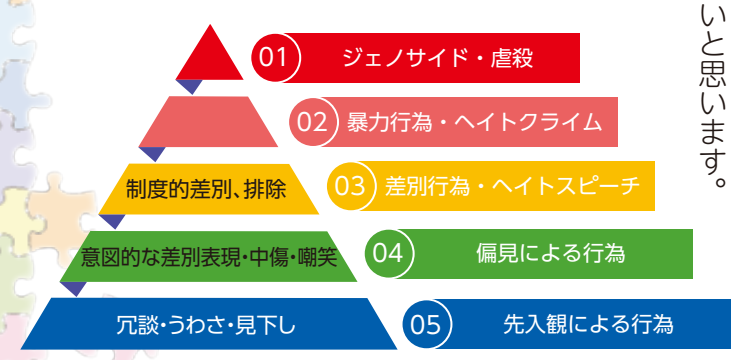
マイクロアグレッションは、コミュニケーションを阻害し、チームワークに影響を与えます。組織やチームの生産性を下げると言われています。また、例えば職場においては、そこで働く人のメンタルヘルスに与える影響も無視できません。メンタルヘルスの不調や早期退職につながることも懸念されています。

○社会への影響

次に社会への影響を見てみましょう。

これは（下図）ヘイト（憎悪）のピラミッドと呼ばれるものです。

差別の行き着く最悪の形は、ナチスドイツがユダヤ人に対して行った特定の人種を虐殺するような行為（ジェノサイド）です。しかしジェノサイドがいきなり起こるわけではありません。２段目の社会的属性を理由とした暴力行為や、３段目の特定の人種を排除するような差別行為が放置されていくことで人々の意識に歯止めがかからなくなっていくということを示しています。さらにその土台にはマイクロアグレッションのような先入観や偏見に基づく言動があります。マイクロアグレッションは目の前のその人を傷つけるだけでなく、放置されることで、より深刻な差別や暴力の土台となっていくということを理解してほしいと思います。



憎悪のピラミット　Anti-Defamation Leagueより

○マイクロアグレッションをコミュニティの共通言語に

マイクロアグレッションはこれまで、ともすれば「たいしたことじゃない」「あなたが気にしなければいいだけ」と言われて過小評価されてきた被害を〝可視化、言語化した〟と言えます。身近な人間関係やコミュニティの中でマイクロアグレッションという言葉が共通言語になることで、一人で抱え込まずに「あれってマイクロアグレッションだよね？」と人と話せるようになり、心身のケアや問題解決へとつなげやすくなります。私たちのセンターにも昨年くらいから研修依頼が多くなり、企業や大学、自治体や公共機関などで次々に研修が企画されています。

○最後に

「差別」と聞くと誰かを中傷したり暴言を吐くといった露骨なものを想像するかもしれません。そして「差別は良くないけど自分にはあまり関係ない」と思っていらっしゃる方も多いと思います。しかし、マイクロアグレッションは私たちの何気ない言動の中にたくさんの偏見や差別が含まれていてそれが時には人を傷つけてしまう、ということを示しています。

でも私たちは普段から「自分は相手に対して偏見を持っている」と思って生きていませんよね？「私は相手の事をちゃんと理解しているつもりだ」そう思って他者と接しています。しかしその「ちゃんとした理解」はどこから来ているのでしょうか？マクロな制度や政治、文化やメディア、小さいころからの教育…私たちは様々な影響を受ける存在であり、その結果マイクロな日常の言動が形作られています。「自分には偏見がある」と気づくことが他者を尊重した関係を作る最初の一歩となります。

参考文献
「日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション―人種、ジェンダー、性的指向：マイノリティに向けられる無意識の差別」

マルイチ　シュンスケ
丸 一 俊 介さん　公認心理師　精神保健福祉士

○プロフィール

個人的な交友関係をきっかけに在日コリアンの自助グループに日本人の立場で関わり、状況の切実さと心理支援の必要性を痛感。メンタルヘルスに関わる国家資格を取得し、2020年、在日コリアンの仲間と共に「在日コリアンカウンセリング＆コミュニティセンター」を開設。人種民族的マイノリティへのカウンセリング活動、マイクロアグレッションについての調査研究、「マジョリティ特権とマイクロアグレッション」についての講演活動などを行う。

翻　訳　出　版：「日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション」明石書店
執筆＆記事掲載：毎日新聞　現代思想　ゲンダイビジネス　ハフポスト　東京新聞など
学　会　発　表：多文化精神医学会　対人援助学会　質的心理学会など

マイクロアグレッションについて興味のある方は下記をご覧ください。
マイクロアグレッション連続講座のページ（有料です）
https://peatix.com/group/11418769

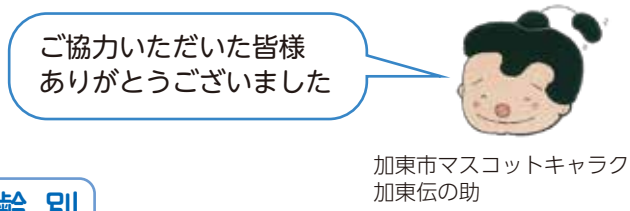
男女共同参画に関する意識調査の結果からみえてくること

加東市では、市民一人ひとりが、性別にかかわりなく個人として尊重されるまちづくりをすすめるため、「男女共同参画プラン」を策定しています。

現行のプランを見直すにあたっての基礎資料とするため、昨年10月から11月にかけて、男女共同参画に関する市民意識調査を実施しました。今回は、26の問いの中から5つの結果をご紹介します。

調査の概要

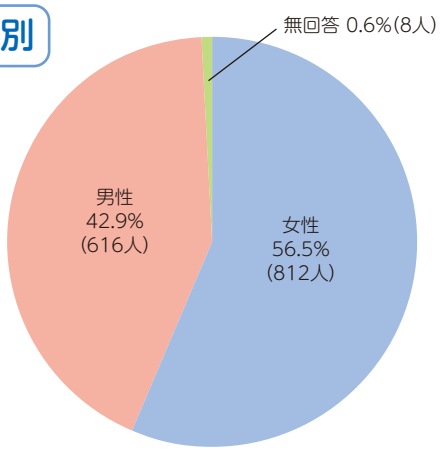
対　　象：加東市に住民登録のある18歳以上の方の中から選ばせていただいた4,000人の方々
調査方法：調査票を郵送し、回答方法は郵送提出もしくはインターネット回答のどちらかを回答者が選択
実施期間：令和４年10月3日～11月４日
回答状況：1,436件　（回収率35.９％）



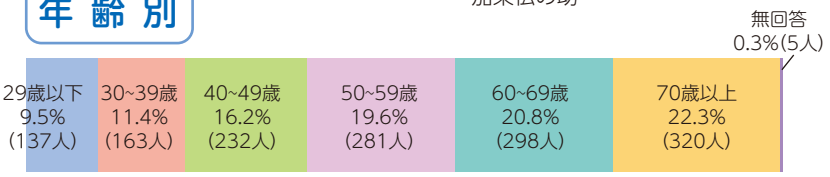
加東市マスコットキャラクター
加東伝の助

回答者の状況

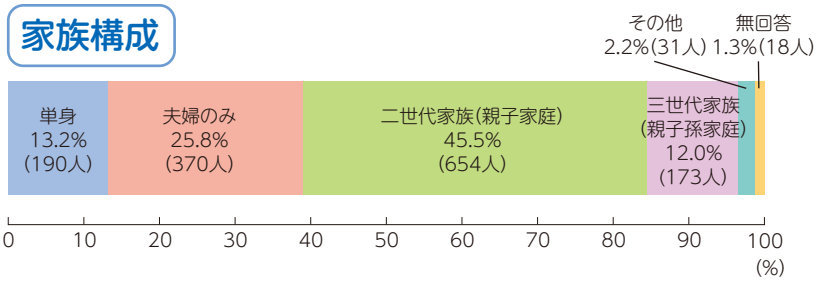
性別



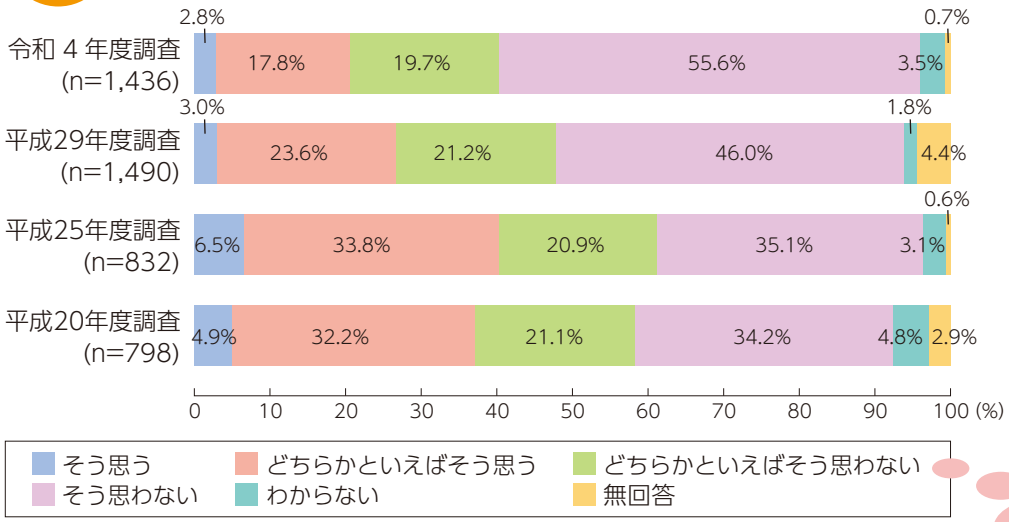
年齢別



家族構成



問　あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思いますか？

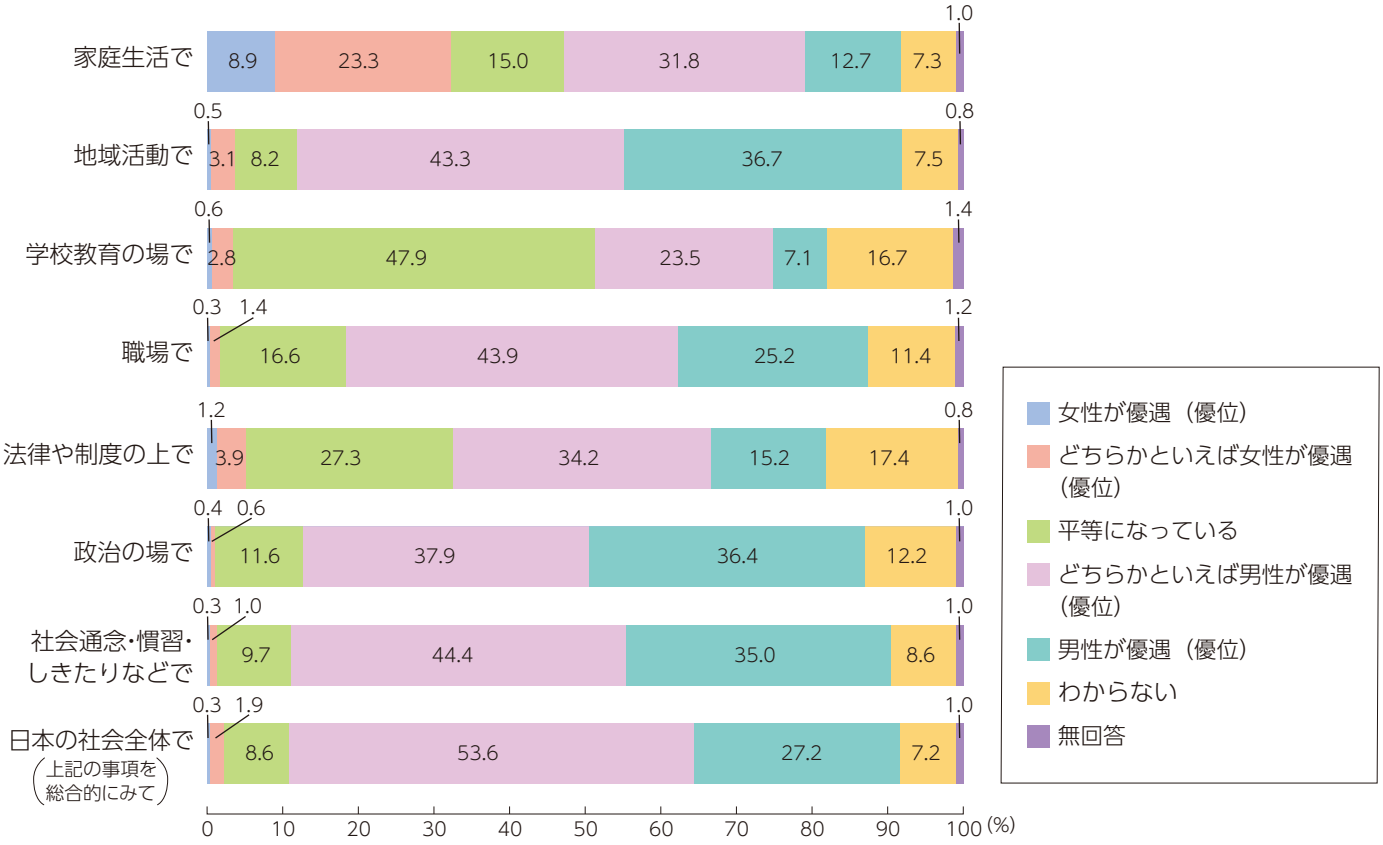


過去と今回の調査結果を比較しましょう。

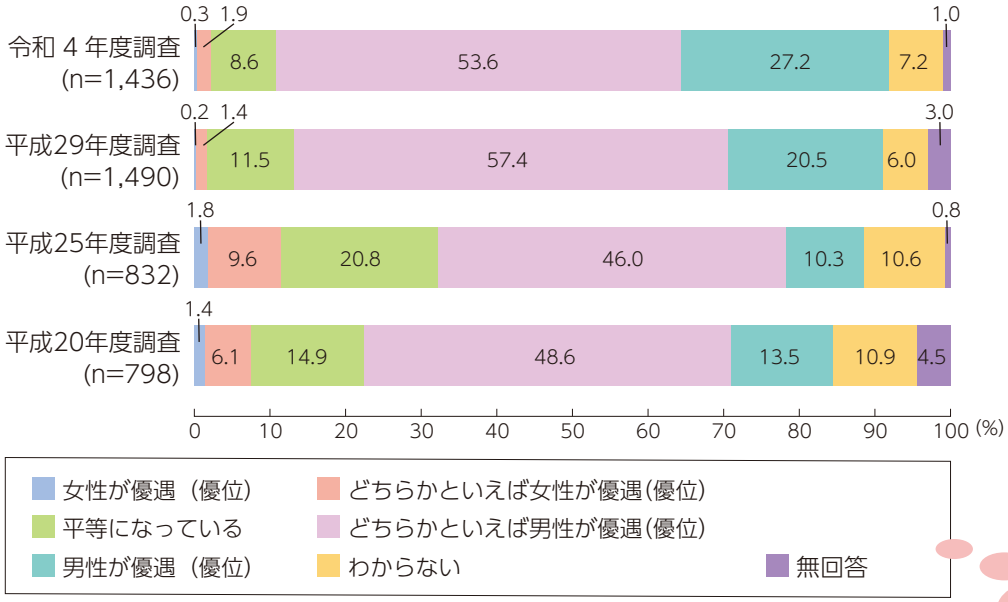
性別による固定的な役割分担意識をお尋ねする質問です。

前回までの結果に比べて、この考え方に否定的な人（『そう思わない』『どちらかといえばそう思わない』人）が増加していることが分かります。

問 あなたは、現在の日本社会でみた場合の男女の地位についてどのように感じますか。



◆前回までの調査結果との比較「日本の社会全体」についてみた場合

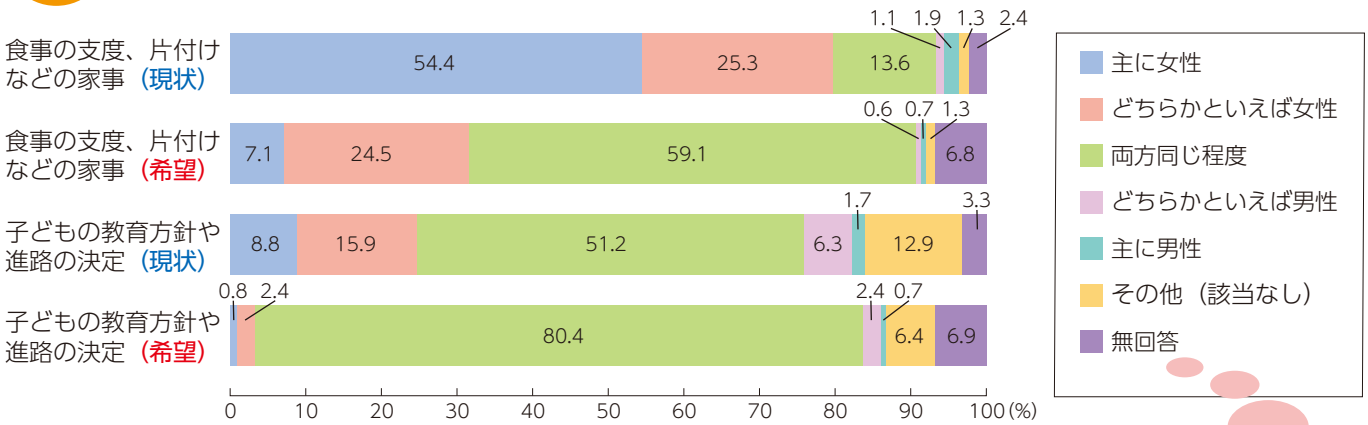


現在の社会のさまざまな場面で男女の地位についてどう感じるかということをお尋ねしました。

「学校教育の場」では男女は平等になっていると感じる人が半数近くいます。また、「家庭生活」においては『女性が優遇』と『男性が優遇』の差が比較的小さくなっています。しかしながら、その2項目以外は、いずれの場合においても 『男性が優遇』と感じる人の割合が、『女性が優遇』と感じる人の割合を上回っています。

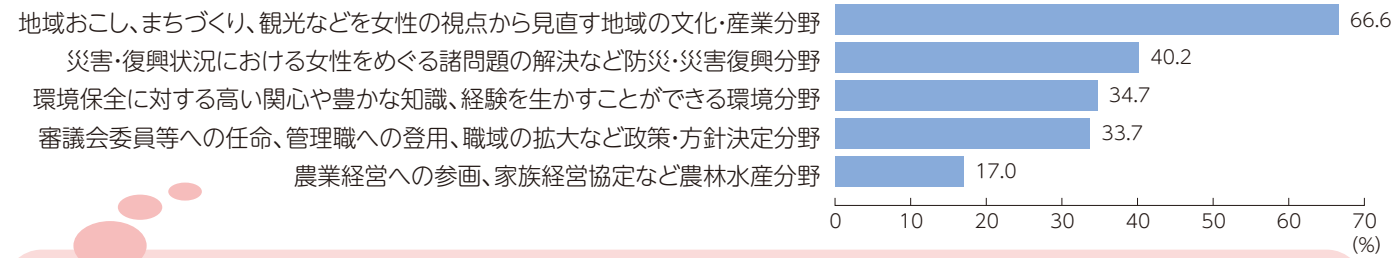
男女平等の意識の高まりとともに、『男性が優遇』と感じることが多く、前回、前々回の調査結果と比べて「男女平等」と感じる人が減ったと推察します。

問　あなたのご家庭では、次にあげるようなことをどなたがされていますか。現状と希望を教えてください。



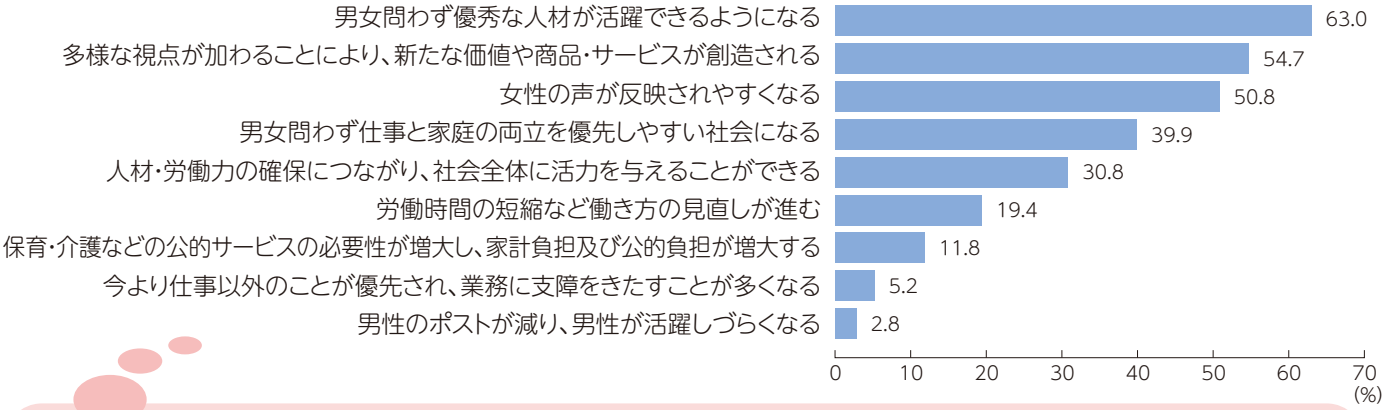
「食事の支度、片付けなどの家事」の希望は、男女間で平等となっていることが望まれていますが、現状では、『主に女性』が担っており、希望どおりに男女で分担できていないことが読み取れます。一方、「子どもの教育方針や進路の決定」の現状では半数近くが『両方同じ程度』となっており、男女共に、子どもの教育方針や進路の決定に関わることができているとわかります。

問　あなたは、今後どのような分野領域で女性の参画が必要になると思いますか。



女性の参画が必要だと思う分野・領域を尋ねてみたところ最も意見が多かったのが「地域の文化・産業分野」で、少子高齢化や人口減少が進む現在において、地域の活性化に繋がる分野で女性の参画が必要と考える方が多くなっていることがうかがえます。

問　政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。



社会において女性が活躍することに対するイメージをお尋ねしたものです。

男女問わず活躍できるようになる、新たな価値が創造される、仕事と家庭を両立しやすくなるなど、よいイメージを持つ方が多いことがわかります。

調査結果によると、固定的な性別役割分担に否定的な方は増えていますが、現在の日本社会についてどう感じるかという質問では「男性が優位」と考える方がまだまだ多いようです。男女共同参画の意識を持つだけでなく、行動に移していくことが大切ではないでしょうか。まずは家事の分担など、身近なところから始めてみてはいかがでしょう。

誰もが暮らしやすい地域づくりにはさまざまな人の視点が必要です。性別に関わらず、誰もが個性や能力を生かせる社会になるよう、加東市では男女共同参画社会の実現に向けた取組を進めていきます。

男女共同参画社会の実現のために、DVについて考えましょう！

男女共同参画社会の実現のためには、男女がお互いの人権を尊重し対等な関係にあることが重要です。しかし、DV（ドメスティック・バイオレンス）と呼ばれる、配偶者や恋人など親密な関係にある人や過去にその関係にあった人から振るわれる暴力で苦しんでいる人たちがいます。

ＤＶには様々な種類があります。殴る、蹴るなど身体的な暴力だけが、DVではありません。あなたが気づいていないだけで、その行為はDVかもしれません。

身体的暴力

・平手でうつ　・腕を強く掴む
・髪をひっぱる　・足でける
・物を投げつける

精神的暴力

・大声でどなる
・何を言っても無視をする
・おどす　・人と会うのを制限する
・人の前で馬鹿にしたり、命令するような口調で話す

社会的暴力

・メールや電話をチェックして監視する
・実家や友達との付き合いを制限する
・外出させない

経済的暴力

・生活費を渡さない
・勝手に借金を作り、返金を強制する

性的暴力

・無理やりアダルトビデオ等を見せる
・性行為を強要する
・避妊に協力しない

子どもを利用した暴力

・子どもに悪口を吹き込む
・子どもを盾に脅す

DVかもしれないと思ったら・・・

〇加東市配偶者暴力相談支援センター
電話番号　0795-43-0411
午前8時30分～午後5時（月～金曜日）（祝日を除く）

〇兵庫県警察ストーカー・DV相談電話
電話番号　078-371-7830（24時間対応）

〇ＤＶ相談＋（プラス）
電話番号　0120-279-889　　チャットやメールについてはこちらから→
（電話・メール相談は24時間対応、チャットは12時～22時の受付）

決して一人で抱え込まずに、相談してください。

中学生の人権作文

「平和って何？」

社中学校　一年　前田（まえだ）　結彩（ゆうあ）

「平和って何？」この言葉は太平洋戦争の沖縄戦を背景に作られた詩、『こわいをしって、へいわがわかった』の中にあったものです。私はこの平和の詩を小さな女の子が朗読しているところをテレビで見て、とても心に残りました。特に、「平和って何？」というところで、なぜか心がズキッとしました。そこで私は、平和をテーマに戦争での出来事について調べてみました。

最初に紹介した沖縄戦では、約二十万人が犠牲になったということを初めて知り、とても残酷だと思いました。戦争の前、沖縄では、食べ物を販売している市場で、人々がにぎやかに過ごしている風景が見られました。沖縄戦前の食事は、サツマイモが主食で、当時の写真を見てみると、女性が笑顔でサツマイモを調理していて、家族と幸せそうに食べていた姿にとてもあたたかさを感じました。他にも、路面電車や人力車、自転車などが道路を通っていて、沖縄の人々の表情は明るく、とても楽しそうな様子でした。きっと「幸せ」を感じていたと思います。しかし、この戦争によって、生まれたばかりの赤ちゃんや、私と同じ年の子ども、そのお父さんやお母さん、あるいは高齢者など、兵士でない多くの人が簡単に殺されてしまったという事実にも衝撃を受け、あってはならないことだと思いました。

広島への原爆投下についても調べました。世界で初めて原爆が、人が住む都市に落とされて、多くの人々が亡くなってしまったのです。調べてみると、実際に原爆で消えた家族についての記事がありました。その内容は、広島市に住む六人家族の出来事でした。原爆が落とされる前日、にぎやかな家族が最後に言った言葉は、「明日は、何をしようかな。」だったそうです。私は、こんな幸せな家族が突然消えてしまったなんて信じられなかったし、とても悲しく思いました。

そして最後にロシアによるウクライナ侵攻についても調べました。二〇二二年二月から始まって、今でもテレビで多く取り上げられています。その様子はまさに残酷そのものでした。銃を持った兵士に、荒れた建物、泣いている小さな子どもなど、見ていてとても胸が苦しくなるような様子でした。しかも戦争は今、実際に世界で起こっていて、まだ続いているということが怖いです。でもそんな中、ウクライナから逃げ出し、空港で再会した家族をテレビで見たことがありました。みんな泣きながら抱き合っていて、とても感動しました。

「平和って何？」最初に話したこの言葉を思い出してください。私は、平和というのは、沖縄戦の人々のように食事や外出など、日常を笑顔で過ごして暮らすこと、原爆投下前夜の六人家族のように「明日は何をしようかな」と希望を持つこと、また家族との再会を喜び合うこと、こんな当たり前の瞬間のことなのではないかと思います。

私は戦争を調べることを通して、平和について深く考え、こう思いました。戦争で人は、簡単に殺されてしまうけど、平和な世界を作るには、まだまだ難しい。私は戦争という言葉が無い世界になったらいいなと思います。ですが、今までに起こった戦争は絶対に忘れてはいけません。戦争は「あってはならない」「悲しい」という気持ちを持ち続けることが平和につながります。だからこそ私は、戦争のことを知り、たくさんの人に伝え、戦争の悲惨さ、平和の尊さを未来に残していきたいと思いました。

「個性を認める」

滝野中学校　二年　上林（かんばやし）　柚月（ゆづき）

私が小学生の時、クラスメイトの中に障がいを持った人がいました。彼は、視覚障がいを持っていて、授業を受けるためには、レンズやタブレットを使わなければ文字を見て読むことができないようでした。私は初めて彼を見たとき驚きました。今まで障がいを持っ

た人と出会ったことがなかったからです。だから、私は彼にどのように接したら良いのかわからなくてなかなか声をかけることができませんでした。しかし、他のクラスメイトが困っている彼に声をかけて助けたり、なにも困っていなさそうなときは必要以上に心配せず障がいのない人と同じように普通に会話をしたり、笑いあったりしているところを見て、私は気が付きました。必要以上に心配されることは苦しいことだと。それから私は、視覚障がいを持っている彼に対して、必要以上の心配はせずに普通に接しました。すると、彼は嬉しそうに、「ありがとう」と言ってくれました。その言葉を聞いて、私もとても安心しました。今、私は転校したので彼と関わることはなくなってしまいましたが、彼が元気に過ごしていると良いと思います。

　私は、この経験を通して障がいを持った方への考え方が大きく変わりました。「彼」と関わるまでは、障がいについて何も知ろうとしなかった上、障がいを持った方が困っているところを見てもなかなか声をかけることができませんでした。しかし、「彼」と関わった今では、障がいを持っている方が困っているところをみたら、助けてあげたいと思い、それを行動に移すことができる自信があります。

　最近、私は電車やバスに乗った時に車いすの人や白杖を持った人が乗っているところに遭遇することがありました。特に困っていそうな様子ではなかったので、声はかけませんでしたが、その時、私は周りの人が関わりたくなさそうな表情や、嫌そうな表情をしているように感じました。障がいを持っているからという理由でそのような表情をすることは、反対にその人に不快な思いをさせていると思います。私は障がいを持っていることが悪いことではない、障がいではなく、その人が個性を持っているということだと考えています。その個性は、その人しかもっていない大切なものです。だから、障がいを持った方を否定することは、その人の個性を否定していることと同じことだと思います。皆さんは人の個性を、それも話したことのない人の個性を否定しようと思いますか。おそらく、そんなことはないと思います。その人と出会って、話して、そこで初めてその人がどんな人かを感じるでしょう。第一印象は大切、というけれども、第一印象にとらわれてその人について何も知ろうとしないで否定することは違うと思います。むしろ、そんな時こそ、その人について知るチャンスだと私は思っています。そのチャンスを幸としてとるのか、それとも不幸としてとるのか、人によって違うと思いますが、幸としてとったほうが良いということは皆さんにも感じてもらえると思います。

　この世の中には、障がいという個性を持った人への理解がある人もたくさんいます。けれども、まだ理解が足りないような気もします。障がいという個性を持った人もそうではない人も、大切な一人の人間として、互いが互いを理解し、支え合っていく、そんな世の中になるとよいな、と願っています。

「戦争のない平和な日常へ」

東条学園小中学校後期課程　八年
鷹尾（たかお）　柚果（ゆずか）

　ある日、私は祖父に「柚果、今日は何の日か知ってるか」と尋ねられました。

　私は誰かの誕生日か、祖父と祖母の結婚記念日かなと思いました。でも、それは私の勘違いでした。その日は曾祖母の兄が戦死した日でした。

　私の家では、命日や百回忌の日は家族全員で一緒にご飯を食べることになっています。ご飯を食べていると、祖父が仏壇を見ながら、「この写真が誰か分かるか」と聞いてきました。私は戦死した曾祖母の兄だろうなと思いましたが、祖父の真剣な表情に、なんだかそう答えるのがはばかられて黙ってしまいました。祖父は泣きながら戦争について話してくれました。「戦争は罪なき人々を一瞬で奪っていった」と。凄く悲しく酷い出来事だということを私はその時知りました。

　次の日、私は、戦争についてもっと知りたいと思い、家のパソコンで調べてみました。調べる中で、山本栄策さんという人に興味を持ちました。滋賀県に住む山本栄策さん。九十九歳になった今でも戦争の記録を残し続けているそうです。山本栄策さんは戦争のことを凄く恐ろしい悲劇だと伝えています。

　初めての戦闘は、戦争が生き地獄だと知った瞬間だったと山本栄策さんは「報道ランナー」の特集

で話しています。それによると、初めての戦闘で、二十人ほどの部隊で中国軍と戦いましたが、生き残ったのは山本さんただ一人だけだったそうです。それでも、戦闘の日々が終わることはありませんでした。

山本さんは戦争を忘れてはいけないという思いから、小学校や中学校で講演会を今でも続けています。「戦争の時代は、撃たれても、怪我をしても、それを治せる医薬品はない。食べるものさえも補給できない状態の中で常に他の国と戦争をしていた」と山本さんは話しています。

その話を聞いた私は、戦争は一度始めてしまうと誰にも止められないし、そう簡単には終わらせることもできないものだと思いました。もう二度とこのような悲しく残酷な出来事を起こしてはいけないと思いました。罪のない人が殺されることはあまりにも悲しすぎます。いつか戦争のない世界が当たり前になってほしいと心から願い、忘れてはならないと思いました。そう、忘れてはいけない。

パソコンを閉じた私の頭の中で、祖父の「今日は何の日か知ってるか」という声がこだましました。そして、泣きながら戦争について話した祖父を思い出しました。あそうか、祖父は、私に伝えたんだ。「柚果、忘れんでくれよ。戦争では罪なき人が殺されてしまう、すごく悲しく残酷な出来事だ。お前の生きる時代で繰り返すんじゃないぞ。忘れちゃならんぞ」と。

祖父の中で戦争は終わっていません。これからも終わることはないのだと思います。祖父も山本さんと同じ思いで、おそらく命尽きるまで戦争を「伝える」覚悟なのでしょう。そして私ができるのはそれを「忘れないこと」なのだと思います。

来年また祖父に「柚果、今日は何の日か知ってるか」と尋ねられたら、私は答えます。

「知ってるよおじいちゃん。大切な人が戦争で亡くなった日。私、忘れないよ」

「学校差別について」

兵庫教育大学附属中学校　一年
田中（たなか）　真央（まお）

こっちを見てにらみつけるようにして言った。

「誰あの子？ねえ知ってる？」

「附属の子じゃない？」

どう考えても私に向けて放たれた言葉。私が小学二年生の夏休み、地域の子ども会のラジオ体操に行ったときに言われた。「クリスマス会」に参加したときにもたまたまビンゴで一等を取ったら、

「うっわ。附属の子のくせに…」

とも言われた。ズルも何もしていないのに。

こんなことはほんの一例だが、なぜこんなことを言われないといけないのか不思議で不思議で仕方がなかった。そして、私が附属小学校に通っているという事実によって差別をされているのだと理解した。

私は、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校と物心付く前から附属の学校園に通っていた。「附属小だから」という理由で心無いことを言う人は、私にとってみんな敵だった。「もう附属に通っている以上、諦めるしかない」そう思った。そんななか、コロナの波がやってきて、私の思いを理解してもらえる機会のないまま、私の子ども会での活動は終わった。

同じ学校に通っていないと、部外者扱いされるのは当然なのだろうか。そんなことを言い出したら、複数の学校の子どもが集まる習い事などは、部外者だらけではないかと、疑問と怒りがこみあげてきた。

小学六年生の夏、私は塾に通い始めた。塾には附属中の生徒はいなかったが、他の習い事で仲良くしてくれた友達がいた。みんながみんな同じ学校ではなかったおかげか、差別されるような言葉はなかった。

中学生になった今、私は附属中だけど塾のみんなは変わらず仲良くしてくれる。自分と同じかという分け方ではなくなったのだ。最初は、「制服かわいいね」とか、「それ、どこの体操服？」ぐらいのあまり続かない会話だったけど、今は友達の一人として接してくれている。子ども会と塾では、学校が違うという状況は同じなのに、心無い言葉を放ったあの子と何が違うのだろうと心に引っかかっていた。

そんなことを思い続けていたときに、学校の総合の授業で「ＬＧＢＴの家族と友人をつなぐ会」から来られた堤さんのお話を聞いた。

「いじめを無くすことは非常に難しい。だけど、無くしていこうという心構えをみんなが持つのはとても大事なこと。そして、当事者の生の声を聴き、お互いが歩み寄り対等な立場で話し合い、より最適

な案を考え実行することが大切。」とおっしゃっていた。

私が附属小の児童だからという理由で差別されたと感じたとき、私自身も喋りかけることはできず、心ない言葉を投げた理由を聞くことすらできなかった。しかし少なくともあの人達は対等な立場として仲良くしようという態度は全くなかったことは分かる。それはまだ幼かったから、私が孤立しているのをただただ見たかったのか、あれから数年経った今も変わらずそうなのか分からない。

なぜ通っている学校が違うだけで、見えない心の壁ができてしまうのか。学校が違っても、住んでいる場所が違っても、みんな同じ一人のこども。私はこの寂しく、悲しい経験を活かし、勝手な思い込みで差別をしないようにしたい。温かい心と心の繋がりを大切にし、みんなが仲良く笑いあえる社会にしたい。そのために一歩を踏み出し、たくさんの人に話しかけ、附属中学校が目標に掲げている「10の学習像」にあるように自他を認め、心を開くことを大切にしていきたい。

地域に学ぶ体験学習支援事業　加東市小学生じんけん教室

市内の小学生を対象に、体験活動を通して人権について学ぶ「加東市小学生じんけん教室」を開設しました。

①異文化交流体験　12/24

ベトナム料理を作ったり民族衣装を着たりして外国の人や外国の文化について理解を深めました。

・東条公民館　調理室・研修室
・小原ユーティンさん、スタッフ3名（加東市ベトナムクラブ）

感想

料理を作ったりアオザイを着たりして、ベトナムの文化を知ることができてよかったです。また、学校生活も日本とはずいぶん違うこともわかりました。とても楽しい時間でした。また来年も参加したいです。

②渋染一揆資料館見学　12/26

江戸時代に、渋染の着物を着ることを強要されたことに対して、団結して撤回させた被差別部落の人々の姿に触れました。

・岡山市渋染一揆資料館
・岡山市人権啓発センター

感想

資料館の先生が、ていねいに話をしてくださいました。そしてわかりやすい内容のアニメも見ることができ、渋染一揆を起こした人々の気持ちがよくわかりました。資料館の貴重な資料をはじめて見て、うれしかったです。

③シッティングバレーボール体験　1/14

足の不自由な人がすわった状態で行うバレーボールを体験し、障害のある人について理解を深めました。

・社小学校　体育館
・柳　昂志さん、スタッフ2名（東京パラリンピック日本代表）

感想

足が不自由でもシッティングバレーボールに挑戦しているのはすごいと思います。はじめて体験して想像以上にきついことがわかりました。パラリンピックの日本代表選手に出会うこともできて、とてもいい体験学習でした。

小中学校人権教育講演会

子どもの頃から、人を思いやる心の大切さ、また、夢に向かって努力する大切さ等をテーマにしたお話を聞くことで、将来に希望を持って過ごしたり、自分や周りの人を大切に考えたりできる大人へ成長することを願って平成25年度から実施しています。

日　：令和４年９月26日
会場：滝野東小学校体育館
対象：滝野東・滝野南小学校５・６年生
講師：桂ぼんぼ娘さん（落語家）
演題：「いじめられっ子からの克服
～生きるってなんだろう～」

新作落語を中心に、わかりやすい口調の落語が好評を博しています。また、学生時代のいじめられた経験から、全国各地の学校でいじめをなくすための講演や、栄養士の免許取得を生かした笑いと栄養をテーマにした講演など活躍されています。

講演では、楽しい話術で子どもたちを引きつけるとともに、いじめは絶対に許されるものではないこと、そして「絶対に生きてほしい」とメッセージを熱く語られました。人とのつながりの大切さや、周りの人へのメッセージの大切さが、子ども達の心に染み渡りました。

感想

・私は、いじめられている子の気持ちがよくわかりました。そして、わかったからこそ、いじめがどんなに嫌なことなのか、つらいことなのかが心に響いてきました。

・いじられキャラという理由でからかってはいけない。なぜなら、言われた人は笑っていても、心の中は悲しんでいるからです。いじめを止めようとしない人たちに言いたい。「やめろよ」「人のために行動し、助けてあげる人になろう」と。お話を聞いて元気が出ました。

日　：令和４年９月30日
会場：社小学校体育館
対象：社・福田・米田・三草・鴨川小学校６年生
日　：令和４年10月21日
会場：東条学園小中学校後期課程体育館
対象：東条学園５年生～９年生
講師：小林祐梨子さん
（元陸上競技選手・スポーツコメンテーター）
演題：「夢に向かって ～今できること、
今しかできないこと～」

中・長距離の陸上競技選手として北京オリンピックや世界選手権に出場し、世界への扉を開きました。現在は、ゲストランナーや駅伝実況中継等の解説、ラジオへの出演など幅広く活躍されています。

講演では、小学生の時に夢を持ち、その夢を叶えるための具体的な目標を作ることで、世界を舞台にした国際大会への出場や活躍を現実としたこと、自分の夢が多くの人々に支えられていたことを等を明るい人柄でお話しされ、子ども達を引きつけていました。

感想

・私は、目標を持ち、それを実行しようという気持ちになりました。そのためには、目標を口に出すことと文字にしたためることが改めて大切だと思いました。それは、目標を達成するんだという強い意志を持つことができるからです。

・心に残った言葉が「できる」です。ぼくは、勉強やスポーツですぐにあきらめていました。しかし、自分の考え方を変えてみようと思います。ぼくも小さくても夢を持ち、夢をかなえるために努力をしていきたいです。

日　：令和４年10月28日
会場：社中学校体育館
対象：社中学校１年生
講師：鈴木　徹さん（パラリンピック陸上競技選手）
演題：「２つのコンプレックスがボクを支えてくれた」

18歳の時に事故により右足を損傷し切断。リハビリを通じて走り高跳びに出会い、日本人初の義足のハイジャンパーとなりました。パラリンピックシドニー大会に出場、北京大会では、開閉会式で騎手を務められ、リオ大会に至るまで５大会連続出場と連続入賞を成し遂げられ、日本のパラスポーツ界を牽引されています。

講演では、自分の武器を生かし、経験とチャレンジを積み重ねていくことで、お金には代えがたい経験につながることを話されました。そのためには、コンプレックスだと思うことの見方を変え、よいイメージを持つこと、そして好きなことを伸ばしていくことの大切さを伝えられました。

感想

・私は、鈴木さんが精神的にも肉体的にもつらいことを「プラス」に考え、行動していくことがすごいと思いました。そして、その志や夢をあきらめない強い気持ちに感動しました。これから学校生活で悩むことがあっても、いつも前向きに考えていきたいです。

・人は、相互に支え合って生きていくものであると考えると、人と人との絆をつくることが人権であると思いました。これからの人生で、私も人権をたくさん感じることがあると思うので、鈴木さんから学んだことを生かしたいと思います。

日　：令和４年11月30日
会場：滝野中学校体育館
対象：滝野中学校１～３年生
講師：金村義明さん（野球解説者）
演題：「我が野球人生七転び八起き
果報は動いて掴む！」

報徳学園高校在学中に春夏で甲子園連続出場。そして、ドラフト１位で当時の近鉄に入団し、その後も中日や西武でプレーされました。引退後は野球解説やテレビ出演も多数され、幅広い分野で活躍されています。

講演では、華やかに見える経歴の裏で数々の挫折を経験しながらも這い上がってこられたのは、他人の３倍練習をしなさいという母親の言葉が支えとなり、努力を積み重ねた結果で、誰かに支えられることの大切さを話されました。また、あきらめない心と前向きな思考を持つことで道が開けると、熱く語られました。

感想

・私は「人よりも３倍の努力をする」という言葉が心に残っています。これから私は、考え方を前向きにし、広い視野を持ちたいと思いました。そして、これからの進路について努力をし、どんな状況でもあきらめずにがんばっていこうと思います。

・「挫折しても、あきらめなければ良いことは絶対に起こる」と言われたことが、強く印象に残っています。これまですぐにあきらめてしまうことがありましたが、これからは自分が無理だと思ったことでも考え方を変えてみて、前向きな方向に自分を導いていくことを実践していこうと思います。

だれもが互いを認め合い みんなの笑顔あふれる 人権尊重のまち 加東市

加東市人権・同和教育研究協議会

住民学習推進部会

■活動の総括

人権学習は、地域の実態に応じて集合型研修（ＤＶＤ視聴や講演）と個別型研修（資料配布やケーブルテレビ視聴）が行われました。

集合型研修では、啓発ＤＶＤ「夕焼け」を使用した地区が多かったです。「夕焼け」のテーマは「ヤングケアラー」で、「新たな人権課題として知ることができた」、「地域のコミュニティーづくりの大切さを考えることができた」といった声があり好評でした。

他には、高齢者の生き方や多文化共生社会の実現をテーマにしたＤＶＤを使った学習も行われました。

講演会は、６地区で行われました。

講演会の講師（順不同）

・近藤文好さん
・大東太郎さん
・嶋田亜紀さん
・藤原正幸さん
・橋本喜貴（人権教育推進員）
・土肥貴雄（人権教育推進員）

資料配布の研修では、「高齢者の人権」と「外国人の人権」がよく取り上げられました。中には、地区独自で人権問題事例の資料を用意して学習された地区もありました。また、『加東市部落差別の解消の推進に関する条例』のリーフレットを活用して学習された地区もありました。

ケーブルテレビ視聴の研修では「インターネットと人権」と「外国人と人権」、そして「障害のある人と人権」がよく取り上げられました。

このような個別型研修は、感染症防止対策だけでなく、「各自の都合の良い時間帯に学習できる」、「家庭内の三世代でいっしょに話し合いができる」等、学習に参加しやすいという声が多く寄せられました。

コロナ禍の中、区長さんと人権啓発推進員さんが中心となり、地域づくりの一環としてできる範囲でやろうという心意気で、様々な工夫や手立てを行って学習されました。

今後も地域の実態に応じて様々な方法を柔軟に取り入れていくことが望まれます。

学校教育部会

今年度は、学校・園での感染症拡大防止のため、保幼班はオンライン会議を、小学校班は実践記録の作成を、そして中学校は公開授業を実施しました。

○高岡育児園

オンライン会議

■研究テーマ
「遊びの中の子どもの学び」
～身近な人やものと関わり、安心して遊ぶ姿を通して『３つの視点』が育つ環境を探る～

■講義
「一人一人が主体的・意欲的に遊ぶ姿を通して『10の姿』が育つ環境を探る」
【講師】
兵庫教育大学
学校教育研究科准教授
飯野祐樹先生

○兵庫教育大学附属小学校

実践記録

■第１学年
■指導者　吉田真矢さん
■題材「どうしてだろう」
■ねらい
性別にとらわれることなく、一人一人の違いを理解し、互いを尊重し認め合うことが大切であることを理解する。

○東条学園小中学校

後期課程　公開授業

■第９学年
■指導者　石井真史さん
■題材「めぐり来る夏に」
■ねらい
現在もなお残る部落差別の現実に触れ、その解決に向けて、様々な努力がなされていることを知るとともに、差別のない社会を目指し、自分がどのような考えを持ち、行動すべきかを考える。

学校教育部会の保育・授業実践を通して、各学校園の授業と保育の改善に努めています。

広域隣保活動事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら、福祉の向上や人権啓発のための各種の事業を窪田隣保館や各地区の公民館等で、総合的に実施しました。

今年度実施事業

◇特設総合相談
7月5日・11月1日・3月7日

◇隣保館総合相談
毎週水曜日14時～16時

◇隣保館だより
毎月1回発行

◇いきいきゲーム教室
２つの絵の中の同じ絵をさがしたり、２つ絵の中の違いをさがしたりするゲームをしました。
さらに、地域の方同士おしゃべりをしながら頭の体操（脳トレ）をして若返りました。

◇読み聞かせ
地域に学ぶ体験学習支援事業の一環として、加東市中央図書館と連携して、窪田隣保館で実施しました。

◇回想法アフター
加東ケーブルビジョン制作のＤＶＤ「加東今昔物語」を視聴したり、「回想かるた」を体験したりして若い時を振り返りました。一人ひとりの懐かしい記憶に働きかける回想法により、認知症の予防と地域内外の交流により楽しい時間を過ごすことができました。

◇ヨガ教室
「ストレス発散」「身体のゆがみ・くせを治す」「自然治癒力を高める」「肩こりなどの慢性的な症状の緩和」といった効果を求めて体験学習をしました。

◇人権講演会
「インターネットにおける人権課題と課題解決に向けた取組」
兵庫県人権啓発協会
助野　慎一郎　さん
誰もが情報を発信でき、人とつながることができるインターネット。上手に使えばとても便利なものですが、使い方を間違うと被害者にも加害者にもなります。参加者は、被害者にも加害者にもならないための研修をしました。

加東市企業人権教育協議会の活動
『受け継ごう確かな実践、進めよう明るい職場づくり』

◇今年度の取組（10月～2月）

第5回社員研修会
第1部
講演「自分自身も周りの人も笑顔になれるためにできること」
加東市健康課
立貝　萌　さん
悩んでいる人に、気づいて、声をかけ、話しを聴いて、必要な支援につなげ、見守ることの大切さについて研修をしました。

第2部
実技「続　心身がよみがえるリラックスヨガ」
ヨガインストラクター
競　梨恵　さん
宮崎　夢香　さん
「元気な心と体」がバリバリ働けるもとです。
コロナ禍の中、会員は「心身の健康維持と体の調子を整える方法」を体験しながら身につけました。「学んだことを、毎日少しでも続けていきたい。」という方が多かったです。

第16期加東市民人権講座修了者一覧

第16期加東市民人権講座を修了された皆さんです。さまざまな人権課題について学習していただきました。
学んでいただいたことを活かし、地域のリーダーとしてご活躍されることを期待しています。
（敬称略）（令和5年2月4日現在）

【社一区】	神戸　博				
【社二区】	増田基宏				
【社三区】	山本宏志	肥田有滋			
【社四区】	岡田直樹	肥田繁樹	絹川文夫	平井一伸	
	鈴木哲雄	岸上龍治			
【社五区】	神崎　仁	藤野鉄生	藤原美佐夫	阿江賢司	
【ひろのが丘】	山﨑仁志	門脇慎吾	松本禮子	坂本和江	
【藤田南】	大橋邦彦	谷本紀恵	戸田正博		
【嬉野台団地】	藤本しのぶ				
【山　国】	柏木一成	出井敏光	井上洋子	山田美由紀	
	田中千裕				
【松　尾】	田中髙代				
【出　水】	大橋秀行				
【田　中】	堀内武久	大橋勝彰			
【鳥　居】	木綿茂博				
【貝　原】	中西秀明	中西正代			
【西垂水】	藤本恵子				
【窪　田】	小東憲朗				
【家　原】	山本はる子	林山晃子	松井則貞		
【上　中】	森本　馨	三谷充典	依藤　寛		
【喜　田】	藤本伸治	丸山　守	前田　徹	中山庸平	
【沢　部】	田中正美	国井美博			
【福　吉】	小林豊茂	竹内　徹			
【上　田】	藤井武文	上石健悟	中嶋千恵	壷井里佳	
	岩本　亮	末永里沙			
【大　門】	蓬萊裕美子	蓬萊智子			
【西古瀬】	岸本尚美	岸本英昭			
【中古瀬】	小林なをみ	小林真須美			
【東古瀬】	内橋くるみ	小紫喜教	小紫豊明	内藤勝彦	
【屋　度】	服部隆利	服部真吾			
【東　実】	宮崎　浄	横山貴博	宮崎充正		
【　畑　】	大槻真澄	山田義樹			
【池之内】	藤本成男				
【下久米】	長濱敏明	河村良一			
【久　米】	中川繁美	大東廣明	安田　朗		
【上三草】	西山　優	藤原宏美			
【下三草】	上月佳子	大西美紀			
【木　梨】	桐藤康彦	松井勝美	遠藤竜二	矢代夏夫	
【藤　田】	藤原佐枝子	大林英之	廣畑孝行		
【山　口】	田尻清治				

【牧　野】	藤本順三	吉田孝好			
【上鴨川】	大畑直毅	宮口省吾	大畑博登		
【下鴨川】	池田勲武				
【平　木】	常見真千	吉田美和			
【上滝野】	東田則子	丸山さおり	前田泰子	田中順子	
	渡邊さより				
【下滝野】	田中宏明	鈴木良忠	木田正文	涌嶋義博	
	上田和生				
【河　高】	宇高康雄	小林寿泰	岡部高明	浅井辰広	
【高　岡】	岡崎智子	小林陽介	深田　誠	藤川敏正	
	常峰豊彦				
【新　町】	時本和志	岡崎修巳	福西恵梨子		
【北　野】	井上千乃	飛岡久良	秋田早由美	岡本久美子	
	樋口幸子	竹原季実子			
【穂　積】	寺田利広	末廣義隆	神戸典章		
【稲　尾】	宮島まさ子				
【多井田】	西山富江	佐藤いく子			
【桜　台】	北條弘師				
【天　神】	上村晃一	田中一樹	岸本佐智代		
【掎鹿谷】	松本弘之				
【古　家】	樋口良一	堂下恵美子			
【常　田】	下羅由香利				
【秋津台】	北野雅美				
【西　戸】	石田京子				
【少分谷】	松尾卓哉				
【貞　守】	小坂征幸	八尾美佳			
【長　井】	安居　毅	谷　正之			
【黒　石】	鷹尾寿明				
【横　谷】	岩崎吉泰	尾谷吉一			
【南　山】	廣畑貞一	福井　諭			
【岡　本】	藤原陽一	柴﨑美智子			
【岩　屋】	麻田英仁				
【新　定】	山本良英	石田尊理			
【吉　井】	岸本真理	久保美紀子	藤原由香		
【小　沢】	藤原尚美	山本真紀			
【栄　枝】	寺本由美				
【厚　利】	山本　誠				
【大　畑】	岸本泰幸	土肥優芳			
【蔵　谷】	近藤芳久	勝田尚規			
【　藪　】	北川真紀	安井寿明			

登録されていますか？

本人通知制度！

代理人や弁護士などの第三者が、住民票の写しや戸籍謄抄本などを取得した場合に、本人に知らせる制度が「本人通知制度」で、不正取得の発見につながります。通知を希望する方は事前登録が必要になりますので、登録手続きをしましょう。
※市ホームページから詳細をご覧いただけます。

加東市本人通知制度　検索

【お問い合わせ】市民課（庁舎1階）　☎43-0390

加東市本人通知制度

園児による共同作品

市内の保育園・認定こども園に通う園児たちが、思いやりや助け合いの気持ちをテーマに共同作品を作成しました。

加東みらいこども園
そら組（５歳児）

みんないろのハーモニー

みんなで歌うと、一人一人の声が合わさって、
そらぐみ色のすてきなハーモニーになるね。

加東みらいこども園
うみ組（５歳児）

ひびけ うたごえ

うみぐみ29人、一人一人の声は違うけれど、
みんなの声が合わさると、すてきな歌ごえになるね。

三草こども園
こぐま組（５歳児）

みんなの命つながる命

ちいさないのちをそだてたよ。
いのちをそだてるってたいへんだけど、すてきなことだね。

米田こども園
つばめ組（５歳児）

きらきらハッピー運動会

竹馬、かけっこ、ダンスにバルーン。どれも力いっぱい
頑張ったね。みんなの笑顔がまぶしかったよ。

鴨川保育園
すみれ組（５歳児）
たんぽぽ組（４歳児）

心の花を咲かせよう！

夏の夜空に広がる花火を観賞した子ども達。
皆が心も明るく過ごせますようにとの願いを込めました。

正覚坊こども園
みどり組（５歳児）

だれとでも なかよし

鬼はこわい、顔が。　いいや、やさしいで。
鬼さん　まりつきしよう。　みんなと一緒は楽しいなぁ!!

東古瀬こども園
みどり組（５歳児）

えがおの花がいっぱい咲いたよ

コスモスが風に揺れて笑っているよ。
笑顔は嬉しい！楽しい！　優しい気持ちになるんだよ。

泉こども園
はくちょう組（５歳児）

みんなの おはなばたけ

みんなのおはなばたけに、
なかよしのむしたちがあそびにきたよ。

椿山保育園
ぞう組・ぱんだ組（5歳児）

伝われ 優しさ どこまでも

いつもお友達のことを考えられるみんな。
心を合わせて運動会も頑張ったね。16人の思い飛んで行け。

たきの愛児園
まつ組（5歳児）

ともに いきている

共に生きている仲間が嬉しくなる顔ってどんな顔?
世界中が笑顔であふれますように♡

高岡育児園
さくら組（5歳児）

みんな ともだち

手をつないで笑い合って　お互いを大切に思えば
ほら　心に虹がかかったよ

加茂こども園
さくら組（5歳児）

ひまわりのやくそく

みんなと過ごす毎日は宝物だね。これからも、
ひまわりのようなまっすぐな優しさを届けたいね。

河高こども園
すみれ組（5歳児）

あったか言葉は思いやり

みんなの中にあったか言葉がたくさん増えて
思いやりの木が大きく育ったね。

東条こども園
きりん組（5歳児）

みんな たいせつな いのち

ひと・いきもの・しぜん、みんなたいせつないのち。
しって、ふれて、まもっていこう！

秋津こども園
すみれ組（5歳児）

つながろう みんなのえがお

だいすきな友達と笑いあうと嬉しいね、楽しいね。
笑顔の花をいっぱい咲かせよう。

さくら保育園
ゆり組（5歳児）

空へ!みんなで!!レッツゴー!!!

組み体操で表現した平和の象徴『鳩』
違いを認め合える素敵な子ども達と、世界の平和を願って…。

人権に関する悩みごとの相談先

加東市マスコット
加東伝の助

差別、いじめ、いやがらせなど、人権に関する問題でお困りの場合は、お気軽にご相談ください。相談は無料で、秘密は固く守られます。

電話で相談

●法務局

○常設相談（みんなの人権110番）
☎0570−003−110
（全国共通人権相談ダイヤル）
　差別や虐待、パワーハラスメントなど、さまざまな人権問題についての相談を受け付ける相談電話です。

○子どもの人権110番
☎0120−007−110
（全国共通フリーダイヤル）
　いじめや虐待など、子どもの人権に関する専用電話です。

○女性の人権ホットライン
☎0570−070−810
（全国共通ナビダイヤル）
　配偶者やパートナーからの暴力、職場等におけるセクシュアル・ハラスメントなど、女性の人権に関する専用電話です。
【以上　平日8:30〜17:15】

○外国語人権相談ダイヤル
Foreign-language Human Rights Hotline
☎0570−090−911
【平日9:00〜17:00】

●公益財団法人　兵庫県人権啓発協会
☎078−891−7877
【平日9:00〜17:00】
　インターネットによる人権侵害を含めたさまざまな人権問題について相談を受け付けています。

●兵庫県LGBT電話相談
☎050−3637−7521
　性的指向、性自認、性表現、SOGIハラ等について、LGBT支援団体の専門スタッフが対応します。
　匿名での相談も可能です。
【毎週土曜日18:00〜21:00】

●加東市人権協働課
☎0795−43−0544
【平日8:30〜17:15】
　さまざまな人権問題について相談を受け付けています。

インターネットで相談（24時間受付）

https://www.jinken.go.jp
　パソコンや携帯電話から、いつでも相談できます。相談フォームに内容を記入して送信すると、最寄りの法務局から、メールまたは電話により回答されます。

手紙で相談

子どもの人権SOSミニレター
　市内の小学校・中学校の児童・生徒に専用用紙を配布しています。まわりの大人に相談できないとき、手紙を書いてポストに投函してください。人権擁護委員や法務局職員が希望する方法（手紙や電話）でお返事します。

面接で相談

●法務局の常設相談
　法務局職員もしくは人権擁護委員が相談を受け付けています。
【平日8:30〜17:15】
神戸地方法務局社支局　☎0795−42−0201

●人権相談
　月3回、次の場所で相談を受けています。相談員は人権擁護委員です。
・第２金曜日　はぴねす滝野
・第３金曜日　社福祉センター
・第４金曜日　東条公民館
【10:00〜11:30】

●隣保館人権相談
　休日を除く毎週水曜日の14時から16時まで人権協働課職員が相談を受けています。
加東市人権協働課　☎0795−43−0544

●人権協働課の常設相談
　人権協働課職員が相談を受けています。
加東市人権協働課
【平日8:30〜17:15】

発行　加東市
加東市人権・同和教育研究協議会
〒673−1493
兵庫県加東市社50
TEL 0795−43−0544　FAX 0795−42−1735